
君が押せ

SUZUKI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君が押せ

【Nコード】
N5478F

【作者名】
SUZUKI

【あらすじ】
ある死刑囚の人生最後の数分間。

今から少しだけ俺の話に付き合ってくれないか。

俺は今、刑務官に連れられて絞首台へ向かう廊下をゆっくりと歩いている。

暴れたりしなければ、少しぐらいゆっくり歩いても何も言われない。いつもは齒に海苔やネギがついている刑務官も今日は齒を磨いている。口臭も無い。

人生の最後に見る壁は真っ白で、床は磨きあげられている。

裸足で歩けばよかった。ひんやりした床を足の裏で感じるのが好きだった。

俺は人を三人殺した罪で、この廊下を一方通行で歩くことになった。線引きは個人個人違うだろうが、この世の中には殺してはいけない人間と、殺してもいい人間がいる。

少なくとも俺の中にはそういう人間がいた。

俺が殺したのは全員殺してもいい人間だった。それでも他人は俺を人殺しと呼んだ。

絞首台のある部屋に入ると、刑務官同士が書類とペンで事務的なやりとりをする。

自分の人生を思い返す。13段ある階段を上がりながら。

さて、首に縄がかかった。そろそろ俺の話も終わりだ。

ここまでつまらない話に付き合ってくれた君に頼みがある。

なに、簡単なことさ。

この画面の下にある『1』ってボタン、それを押してくれないか。

そのボタンがこの絞首台のボタンなんだ。

君が俺の人生を終わらせてくれ。

さあ、早く。

ガタンッ…。

（よくやった。これで君も立派な人殺しさ）

終
わ
り

（後書き）

これはケータイ小説でしか出来なかったこと。これがやりたかったから書いたようなもの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5478f/>

君が押せ

2011年10月5日14時26分発行